

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：やすらぎの家デイサービスセンター（認知症対応型通所介護）

日 時：令和7年3月19日(水)

場 所：やすらぎの家デイサービスセンター

出席者：

利用者代表	0名	地域代表	1名
利用者家族	1名	市高齢者福祉課	1名
事業所職員	2名		

議題

1. デイサービスの利用状況について【資料 1】
2. 行事・活動について【資料 2】
3. 入浴介助の取り組みについて【資料 3・4】
4. 意見交換

●利用状況について

【令和7年2月現在 利用登録者21名の状況】

性別	男性 1名	女性 20名			
介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
分布	7名	7名	5名	2名	0名
利用頻度	週5日	週4日	週3日	週2日	週1日
	1名	4名	4名	5名	7名
平均年齢	86.04歳（昭和1ケタ7名、昭和10年代10名、昭和20年代3名、昭和30年代1名） 68歳～98歳				
平均介護度	2.09				

●行事・活動について

実施状況

9月	十五夜団子、長寿お楽しみ会（敬老会）、シルバーウイーク外出、誕生会、おやつ作り（おはぎ）、調理
10月	運動会、ものまねショー観覧、誕生会、調理、おやつ作り
11月	誕生会、調理（白身魚の竜田揚げ）、おやつ作り
12月	マジックショー、紅白歌合戦、忘年会、クリスマス会、餅つき、調理（チャーハン）
1月	初釜、新年会、誕生会、調理
2月	節分、バレンタインデー、誕生会、調理

ほほえみ会ボランティアさんによる【折り紙教室】【銭太鼓】【初釜】

今後の行事予定

3月	ひなまつり、ホワイトデー、お彼岸ぼたもち作り、よもぎ摘み、花見、誕生会、調理
4月	花見、喫茶、おやつ作り（桜もち、よもぎ団子）、調理

●入浴介助の取り組みについて

入浴状況 登録人数 21名

入浴あり	15名	70%
入浴なし	5名	23%
入浴できていない	1名	4%

入浴介護加算（Ⅰ）5名

入浴介助加算（Ⅱ）10名

入浴介助加算（Ⅱ）の加算では、入浴計画をたてるが、その際自宅での入浴状況、浴室環境だけでなく、在宅生活を維持していくために必要な所も合わせてみている。入浴介助にあたる介護スタッフは、入浴の動作に必要とされる動きが、デイでの日常生活や活動に取り入れることはないか、意識しながら関わっている。また、毎日の体操に下肢運動を重視し取り入れ、個々の利用者にとって何が必要で、どうすれば在宅での生活が続けられるかを考えた計画となるようにしている。

●意見交換

【市高齢者福祉課】

詳しく説明してもらい、色々な面で工夫されているのが良く分かった。行事活動もたくさんでみなさん楽しまれていると思う。デイサービスは介護保険サービスの中でも最初に利用される、窓口的な存在となるので、細やかな配慮で安心できるサービスを受けることで印象が良いと、その後必要となるかもしれないグループホームや小規模多機能型の施設へ移行する際にも不安少なくスムーズであると思う。スタッフの関わりで安心できる関係が築けている。

【利用者家族】

母はいつもデイサービスへ楽しみに出かけている。家で看られないわけではなく、家にいると会話することも限られ、同じことを何回も聞くようになりお互いにストレスがあると思う。デイサービス利用することで、家にいる事でのマンネリ化が解消されている。

【地域】

地域のボランティア活動で、これまでも色々な家庭へ訪問してきたが、デイサービスへ自分からすすんで行く人はいない。家族は入浴し食事をし、夕方まで面倒をみってくれることで安心できるため行かせたい思い。

【事業所】

市内の認知症専用のデイサービスはもともと 16 カ所あったが、7 カ所に減っている。専門性を活かし、細やかな対応をすることをアピールし、介護が必要になった時に初めて受けるサービスの一つとして窓口的役割を担いたい。

入浴介助計画書の作成を通し、自宅とデイサービスの生活をつなげて考え、在宅生活の継続を支援できるよう、介助を工夫する視点を持つことで、介護スタッフの育成、成長にもつながっている。

【市高齢者福祉課】

計画書に生活リハビリや必要な体操のことなど、細やかに計画し記載されていることがわかった。

【地域】

家族によってはこちらからお手伝いすることがあれば、と声をかけても受け入れられない家も多い。実際 家族が閉じ込めている家庭内独居の方もあり、家族が SOS を出さないと周りも手が出せない。

【家族】

家庭内独居のような人へは行政が根気よく話をしに行くことが必要だと思う。近所の人のが気になるっても他人は踏み込みにくいので、行政の力が必要だと思う。

施設を利用することは、もう今では年をとればあたり前のことだし、利用することや支援が必要になったことを近所へも隠す必要はない。むしろ知らせておく方がよい。

【市高齢者福祉課】

意見を活かせるように持ち帰ります。

【事業所】

デイサービスを利用することで社会とのつながりができる。ここで利用者同士の友人関係ができしており、また地域の方が来られることでもつながりができている。ボランティアを含め近隣の方々には、いつも助けられている。